

〔研究ノート〕

## データで見る英語多読学習導入の効果

吉田 弘子

### 要旨

多読を取り入れた英語指導は、学習者のやる気を引き出し英語力の向上につながる最も効果的な学習方法の一つとして全国の中学・高校・大学で導入が拡大している。本稿では、大阪経済大学において2008年度秋学期以降に導入している英語多読学習の効果を図書の貸出冊数と学生の読書量を中心に報告する。まず、多読学習指導開始以降、図書館での洋書貸出数が激増し、本学の図書貸出数の半分以上を占めるまでになった。また、授業外多読を行うために図書館へ通うことにより、「図書館が大学で最も自分の好きな場所」にあげる学生も出てきた。さらに、大学1年間で中学・高校での英語リーディング総量をはるかに上回る量の英文を読む学生も現れ、多読学習導入が学生の英語への抵抗をなくし、前向きな態度を培うことにつながっていることを示唆している。

キーワード：英語学習、多読、多読指導、授業内読書、図書館、

### 1. はじめに

多読を取り入れた英語指導は、学習者のやる気を引き出し、英語力を向上させる最も効果的な学習方法の一つであるとの認識が広がるにつれ、全国で導入が進んでいる (Takase & Uozumi, 2011)。多読とは学習者が各自の英語力に応じた理解できる易しい英語の本を大量に読むこと (Bamford & Day, 1997) をいい、あらゆるレベルの学習者に対して実施することが可能である。多読によって大量の英語によるインプットを増やした学習者は語彙や文の構造に対する理解を深め、良いリーディング習慣を身につけることができると言われている。

現在までに多読に関する多くの研究がおこなわれ、その効果としては英語に対する前向きな態度の形成 (Mason & Krashen, 1997a, 1997b; Mohd Asraf & Ahmad, 2003; Takase, 2007)、英文読解速度の向上 (Beglar, Hunt, & Kite, 2012; Iwahori, 2008)、語彙習得 (Horst, 2005; Waring & Takaki, 2003)、読解力養成 (Elley & F., 1981; Robb & Susser, 1989; 高瀬, 2007)、TOEIC や他の検定テストの準備として有効 (Nishizawa, Yoshioka, & Fukada, 2010; Nishizawa, Yoshioka, & Ito, 2006; Takase 2007) などが報告されている。大阪経済大学では筆者の担当する経済学部一年生英語クラスにおいて2008年度秋学期から多読学習をスタートさせた。また、非常勤講師を対象として毎年開催している英語教員説明会においても多読学習を紹介し、英語教員に全学共通教育の英語授業に多読を導入するように働きかけて

きた。その結果、現在では多読指導を全学共通教育英語授業に取り入れているクラスが徐々に拡大している。本稿では、大阪経済大学での英語多読学習導入の効果を図書館の貸出冊数と筆者が担当したクラスの学生の読書量に焦点をあて報告する。

## 2. 多読とは

多読とは、学習者向けに語彙数や文法などが統制されたやさしい本を大量に読むことをさす。日本の英語教育では、文法に則り、一字一句を訳して英文の意味を理解する「訳読」がリーディング指導の主流であった。英文を分析しながら日本語訳に置き換えるという方法ではリーディングがセンテンスレベルの理解にとどまり学習者が効果的な読書に必要な全体の意味把握にいたりにくく、また読む分量が非常に限られるという弱点がある。この訳読の弱点を補い英語習得を促進させる手段として近年、高校・大学の英語教育で導入が進んでいるのが、多読である(吉田, 2010a)。

多読に使用する本は、以前は高校などで副読本として利用されていたグレイディッド・リーダー(Oxford Bookworms など)が主であったが、最近では欧米で出版されている児童書を多読スタート時に使用することが多い。例えばイギリスの小学校で教科書または副読本として利用されている Oxford Reading Tree (ORT) や Longman Literacy Land Story Street (LLL-SS) が多読指導の初期リーディングとしてよく知られている。しかし、国内外の出版社から出版されているペーパーバックは、出版社によって本の難易度レベルの基準が異なり多読指導の弊害になっていた。これに対処するために、日本多読学会などでは日本人学習者向けに語彙、文法、文の長さ、文字の大きさ、文化的背景などを考慮に入れて日本人により設定された統一した難易度の基準 YL (Yomiyasusa Level) を作成し、使用を勧めてきた。英文の難易度を表すには文章の平均的長さや各単語の平均的な音節数をもとに算出する Flesch 式や Flesch-Kincaid 式もあるが、多読指導にあたっては YL を参考にするにより、出版社が異なる場合でも学習者の英語レベルにあった図書を選ぶことができる(吉田, 2010b)。

多読指導では、授業内読書(Sustained Silent Reading)を取り入れること、やさしい本から始めること(Start with Simple Stories)、そして最小の読書後課題(Short Subsequent Tasks)の3つがポイントである(高瀬, 2010)。大阪経済大学では英語担当教員が多読指導を授業に導入する際に特別な決まりは現時点において設けておらず、各担当者の自主的な取り組みに任せているが、高瀬(2010)の指摘する3点は、多読指導をより成功へ導くための指針となろう。まず、授業内読書とは授業内で各自多読本を読むことであり、利点としては学習者の読書時間を確保できる、指導者が学習者の読書状況を観察できる、学習者の集中力を養うことができる等を挙げることができる。また、教師自身が授業内読書の時間に学生と一緒に多読本を読み、良き読み手としての手本を示すという点でも有効である。筆者のクラスでは、ほぼ毎回の授業で15分程度の授業内読書を実施している。やさしい本から始めるのは、学習者の英語力よりも難易度を十分に下げた平易な英語で書かれた本を読むことで「これなら読める」という自信をつけさせ、やる気を起こさせる目的があ

る。筆者のクラスでは多読授業を導入するために毎年春学期初めに図書館でオリエンテーションを実施しており、その際に語数が少ないYL 0.2~0.3程度の児童書（資料1）から読み始めるように指導している。また、読書後課題としては、学生の課題へ取り組む負担を最小限に抑えた多読リーディング・ログの記入を求めている。多読指導を導入した2008年度はBook Reportとして本を1冊読むごとに感想などを含むA4用紙1枚程度の報告を提出させたが、学生からは、「レポートがあると、感想が気になって読むのに集中できない」、「感想がなければもっと読めたと思う」という声が終了後のアンケートで多数寄せられたので、2009年度からはリーディング・ログ形式に変更した（吉田, 2010a）（資料2）。

多読授業のおおまかな流れは、図1に示す。図書館では、初回の多読オリエンテーションを実施するほか、授業外に多読本の選択と借り出しを行う。学生はそれらの本を授業外で読み、一冊読むごとに日付、本のタイトル、出版社、単語数、評価や読了所要時間を簡潔にリーディング・ログに記入する（吉田, 2010a）。また多読図書リストを配布し、読了した図書名をマーカーで塗りつぶして成果が見えるようにもしている（資料3）。このリーディング・ログや多読図書リストは毎回授業に持参させ、授業内多読時間に教員は机間巡視し、各学生の1週間の多読成果をチェックして適宜フィードバックを行う。この机間巡視では学生が授業外で定期的に読んでいるか、読んでいる本のレベルは適切かどうか等を確認し、読書量が伸びていない学生には、理由を聞き次回までに授業外多読を増やすようにアドバイスを行う。毎年多読授業の実施を続けていくうちに、この授業内多読中のフィードバックが多くて学生の多読学習の成否に大きな影響を与えることがわかってきた。学生の中には、オリエンテーションでの説明だけで「多読の波」にたやすく乗ることが出来る者もいるが、授業外で図書館に行き、英語の本を借りて読むことに積極的ではない学生も存在する（Robb, 2002）。これらの学生を机間巡視で指導することを筆者は「ラウンド（回診）」と呼び、できるだけ早く多読が大学生活の一部になるように助言するようにしている。

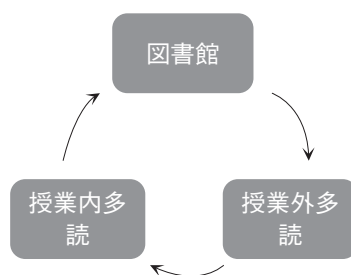


図1 多読指導の流れ

### 3. 多読指導の効果

まず、多読指導導入前後の大阪経済大学図書館の貸出冊数のデータを紹介する。表1は2007年度～2011年度における図書館の貸出冊数と総貸出冊数における洋書の割合を示す。図2は貸出冊数の推移をグラフで表したものである。多読指導を導入していない2007年度と比較すると<sup>1)</sup>、2008年度が多読指導導入後に洋書の貸出冊数が明らかに増加し、総貸出冊数における洋書の割合は、2011年度では実に54.55%に達している。語学図書の貸出冊

表1 2007～2011年度の図書館貸出冊数推移

年度	総貸出冊数	洋書	語学図書	洋書／総貸出冊数 (%)
2007	11,953	601	570	5.03
2008	11,278	1,052	692	9.33
2009	14,600	2,361	742	16.17
2010	20,113	7,479	681	37.18
2011	21,911	11,953	498	54.55

データは2012年図書館調査による<sup>2)</sup>

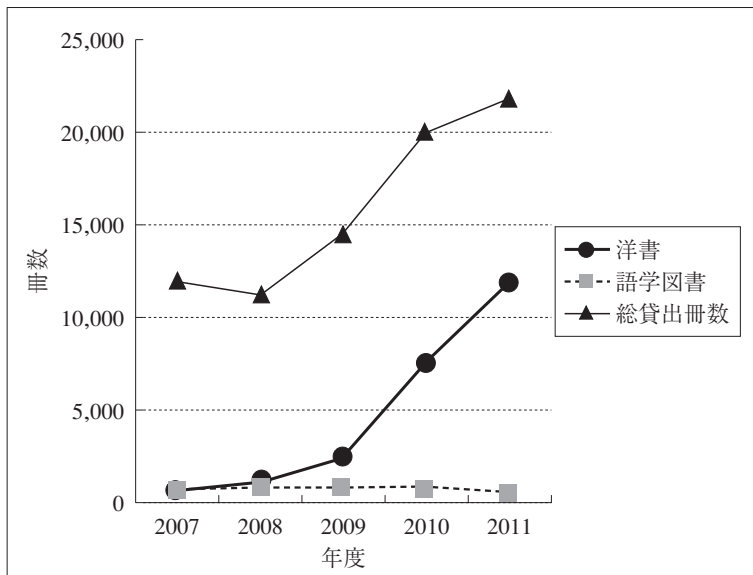


図2 2007～2011年度の図書館貸出冊数の推移

- 1) 2007年度以前も Book Report が存在し、洋書を読んでレポートを1枚提出するごとに成績にボーナスポイントを加算したクラスもあった。
- 2) 2011年の図書館システムの入替え以前は、多読用図書の貸出冊数は「洋書」の中に含まれていた。この洋書には、多読図書以外の若干のペーパーバックを含むが、蔵書数が非常に限られているため、ここで示す洋書はほぼ多読用図書と考えてよい。

表2 2012年度（4～6月）図書館多読図書貸出状況

利用者	4月	5月	6月
1回生	1128	1867	1443
2回生	746	704	649
3回生	172	161	88
4回生	60	52	39
学部生計	3674	4894	4657

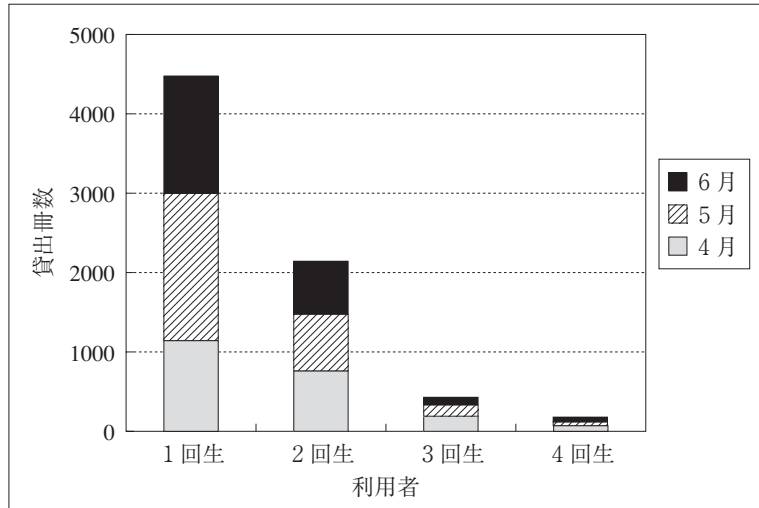


図3 2012年度 4～6月多読図書利用者別貸出冊数

数にそれほど目立った変化がないことから（図2）、これらの洋書貸出冊数の変化は、多読授業導入によるものと推定できる。

表2は2012年度の春学期3ヶ月間における図書館の多読図書貸出冊数を示す。学部生を学年別にみると、1回生が最も多く、2回生、3回生、4回生の順になっている。大阪経済大学全学共通英語プログラムでは、英語を英語必修科目として選択した学生の場合、基本的に1回生と2回生の2年間に英語を学ぶが<sup>3)</sup>、多読指導は主に1回生の学部別に編成された習熟度別クラスにて導入されていることがうかがえる<sup>4)</sup>。しかし、筆者が多読指導を行った2009年度入学の学生はこの調査時点で4回生になっているが、彼らが多読指導を受けた授業の終了後に任意で継続して多読を続けている様子がありうかがえないことが4回生の貸出冊数が少ない図3から推測できる。4回生は就職活動などで多忙であることも一因かもしれないが、高瀬（2010）が言うように、学生が授業外で多読を継続することは容易でなく、多読指導を複数学年の授業で継続して取り入れることの大切さを示唆して

3) 全学共通英語科目の取り扱い、学部によって若干の違いがある。また、再履修生を除く。

4) 2回生は全学部混合でトピック別のクラスを学生が自ら選択して受講する。

いる。

次に、筆者の担当した英語クラス（経済学部1年生）で、学生が授業で提出したリーディング・ログ（2008年度は Book Report）の記録をもとに実際に学生が多読本をどの位読んだかを報告する。表3は読了した多読本の冊数を、表4は読了語数を示す。先に述べたように、多読本は1冊あたりの語数の差が大きく、難易度も本によりさまざまである。SSS 英語学習法研究会（2012）によると1冊あたりの語数は、1（つまりタイトルにしか文字が存在しない）の児童書から、20万語を超えるグレイデッド・リーダーが存在する。この多読図書における種類と難易度の豊富さは、あらゆる英語力の学習者が自らの英語力に応じた本を選択するためには不可欠であるが、大学の授業に多読を導入し評価に反映させる場合には、読了冊数のみで判断することは公平さに欠く。そのため、学生の読書量を公平に評価するために読了語数による記録が非常に重要になる。筆者の授業で初めて多読指導を導入した2008年度秋学期は、当時図書館にすでに蔵書のあった中で最も読みやすくほぼ同じ語数で書かれている Longman の Easystarts（およそ900語数）を教材に限定して多読をスタートさせたため読了課題を冊数で設定したが、2009年度以降は、図書館に様々なレベルの児童書及びグレイデッド・リーダーが導入されたために語数に変更した（吉田、2010a）。但し、語数のみを課題にすると、語数確保のために難易度の高い本を選択する学生も少なからず現れるのでこれを未然に防ぐために、2011年度からは冊数目標も同時に課した。課題の目標とする語数（冊数）は、年度によってあるいはクラスの習熟度に応じて変更した（表5）。

なお、学生には毎回授業内に図書館で借りた本を持参するように指導しているが、筆者が個人的に購入した様々な多読用図書も授業に持参し、授業内読書で読めるようにしている（資料4）。また、一年間の多読指導<sup>5)</sup>では新規効果が薄れる秋学期にはどうしてもマンネリに陥りがちになる。そこで、学生の新たな多読への意欲を喚起する為に図書館と協力して優秀者は担当教員から表彰され、図書館報に掲載されるという多読プロジェクト「Project EX (Extensive Reading)」(資料5-6)を2009年度から実施し、秋学期に新たな目標を持って多読に取り組むことができるようにしている。

表4-5が示すように、多読指導を授業に一年間に取り入れた結果、ほとんどが読了目標を達成しており、中には最大で年間31万語以上読了した学生がいたことがわかる。中学・高校の6年間で使用する英語テキストの総単語数は30000~50000語であり、学生たちは入学後の1年間にこれを上回る大量の英文を読んだことになる。学生への多読終了後のアンケートでは「英文に対する苦手意識がなくなった」、「TOEICの問題が読みやすくなった」など多読に対する好意的な意見が見られた。

特筆すべきは、e24クラスでの実施状況である。このクラスは英語に対して大の苦手意識を持っている学生が多く、中学1年から英語が嫌い英語学習にアレルギーを持っている

5) 単位上、一年生の英語は半期ごとの英語Ⅰ（春学期）、英語Ⅱ（秋学期）に分かれているが、同一教員が同じクラスを担当するので、実質上通年の授業に近いクラス指導がなされている。

表3 学生が多読本読了冊数

年度	クラス	学期	N	読了冊数	読了冊数 最大	読了冊数 最小	平均読了 冊数
2008	e3	秋学期	19	559	40	14	29.42
2009	e1	春学期	19	384	28	5	20.21
	e1	秋学期	20	388	37	10	19.40
2010	e2	春学期	17	298	25	8	17.53
	e2	秋学期	16	391	80	9	24.44
	e3	春学期	18	511	64	6	28.39
	e3	秋学期	18	747	62	21	41.50
2011	e24	春学期	18	301	101	4	16.72
	e24	秋学期	15	618	212	15	41.20
	e1	春学期	17	1801	192	40	105.94
	e1	秋学期	18	1331	155	48	73.94
	e2	春学期	19	1774	124	42	93.37
	e2	秋学期	18	541	251	51	30.06

たと述べるものも春学期当初には多数存在した。そこで、目標読了語彙数を春学期10000語、秋学期20000語に設定したが、18人中15名が目標を達成した。また、31万語を読破した学生もこのクラスから現れた。以下に、e24クラスで1年間に多読を実施した学生のアンケートに寄せられた感想を紹介する（15名中13名が記述した内容である）。

「多読を行ってよかったと思うこと（自由記述）」（e24クラス対象）

- ・英語が好きになった！
- ・少しは英文の読むスピードが上がった。
- ・英語を読むという楽しさがわかったような気がする。
- ・すらすら読めるようになった。
- ・英文に慣れて割とすらすら読めるようになった。
- ・自分から英語の本は絶対読まないけど、この授業を通して読めてよかったと思う。
- ・英語力が伸びた
- ・英語への抵抗感を減らした。
- ・活字にふれてよかった。
- ・昔と比べて英語に対する嫌な気持ちはなくなった。
- ・英語に関する嫌な感情が少なくなった。読みながら内容を把握できた。
- ・なんだかんだ言って英文を読むスピードが上がった。
- ・英語にふれる時間が増えた

多読指導の最大の利点は、それまでの英語学習歴がどのようなものであっても、英語力を身につけることが可能であるという点である（吉田，2010b）と書いたが、これらの学生の感想はまさしくそれを示している。もちろん、多読にプラスして語彙や文法力養成な

表4 学生の多読読了語数

年度	クラス	学期	N	読了語数	読了語数 最大	読了語数 最小	平均読了 語数
2008	e3	秋学期	19	NA	NA	NA	NA
2009	e1	春学期	19	409046	39200	4500	21528.74
	e1	秋学期	20	903568	106800	19600	45178.40
	e2	春学期	17	357559	32417	7200	21032.88
2010	e2	秋学期	16	664811	60600	15800	41550.69
	e3	春学期	18	248893	60106	8316	13827.39
	e3	秋学期	18	649833	70628	12329	36101.83
	e24	春学期	18	285738	100337	3784	15874.33
2011	e24	秋学期	15	375535	213718	3254	25035.67
	e1	春学期	17	793570	63877	30259	46680.59
	e1	秋学期	18	1123542	83673	50115	62419.00
	e2	春学期	19	878422	75874	16742	46232.74
	e2	秋学期	18	1223949	100971	54157	67997.17

注 NA は記録なし (2008年度は冊数のみによる記録のため)

表5 年度・クラス別読了語数 (冊数) 目標

年度	クラス	春学期 読了語数 (冊数) 目標	秋学期 読了語数 (冊数) 目標
2008	e3	NA	40冊以上
2009	e1	20000語以上	40000語以上
	e2	20000語以上	40000語以上
2010	e3	20000語以上	40000語以上
	e24	10000語以上	20000語以上
2011	e1	40000語 (かつ100冊) 以上	60000語 (かつ100冊) 以上
	e2	40000語 (かつ100冊) 以上	60000語 (かつ100冊) 以上

注 NA は記録なし (2008年度は秋学期から実施)

ど基礎的な指導も欠かせないが、中学・高校6年間の英語学習に対するアレルギーが1年間の多読導入により、見事に変貌を遂げたことは多読学習のもつ可能性を大いに示唆するものであろう。

#### 4. まとめと今後の課題

本稿のデータが示すように、多読学習指導を英語クラスに導入した結果、図書館での洋書貸出数が激増し、本学の図書貸出数の半分以上を占めるまでになった。また、授業外多読を行うために図書館へ通うことにより、「図書館が大学で最も自分の好きな場所」にあげる学生も出てきた (学生との談話)。大学1年間で中学・高校での英語リーディング総量を上回る量の英文を読むことは、学生の英語への抵抗をなくし、前向きな態度を培うことにつながっている。しかし、一方で現状では主に1回生の授業で多読指導を実施しているた



めに、1年間の授業終了後に自主的に多読図書を借りる学生の割合は低い。Nishizawa et al. (2010) の研究によれば、多読学習の効果は、英語への抵抗感がなくなるなど情意面での効果は多読開始後早期に現れやすいが、TOEIC 等のスコアアップは30万語を読了した頃ようやく実感できはじめるという。多読指導を外部試験等による英語力アップにつなげるためには、30万語読了をひとつの目標とし、2回生の英語授業でも多読を導入して複数年の継続した多読指導の授業を展開する必要がある。多読指導を導入するクラスを増やすことが不可欠であるが、そのためには多読指導への関心を専任・非常勤講師を問わず高めなくてはならない。また、多読本の冊数確保も重要である。2011年度に4名の英語教員（内、非常勤講師2名）が多読をそれぞれの授業で取り入れたところ、春学期開始早々に多読図書書架が空になる事態が生じた。多読初期においては難易度の低い（YL 0.5 程度まで）本を大量に読み、英文を読むことへの抵抗感をなくすことがその後の多読の成功へのキーポイントである（高瀬，2010）ことから、このレベルの多読図書の絶対数を増やすことが多読指導を全学プログラムへ拡大する際には不可欠である。さらに、学生が図書館で自分のレベルに応じた本を借りることが基本であるが、図書館に行くのを忘れていたり、あるいは借りた多読図書のレベルが不適切な場合に（多くの場合学生が借りた本の難易度が高すぎるが多い）、教員が教室に多読図書を持参していれば適切な指導が可能になる。筆者の場合は、自分の図書を持ちこんでいるが、黛 and 宮津（2012）が報告する順天堂大学のように多読指導を実施する全教員にあらかじめ易しい多読図書をセットして「クラス持ち込み用多読図書」を貸し出す体制ができれば、キメの細やかな指導が可能になる。今後大阪経済大学の英語プログラムに多読を取り入れた授業をさらに導入するには、対処すべき課題は多いが、多読指導が学生の英語学習に与える素晴らしい効果を実感できるのは、教員として何よりの喜びである。筆者もこの効果に支えられてきて4年半にわたる多読指導を続けることができたと言っても過言でない。今後も大阪経済大学の多読指導を充実させ、英語教育の発展を目指したいと思う。

#### 謝辞

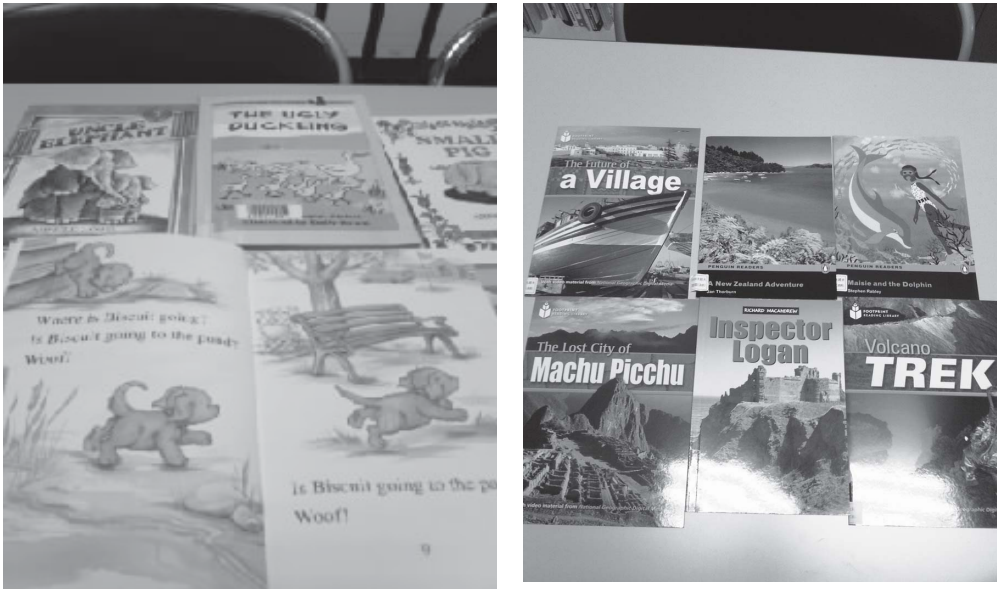
多読指導を実施するに当たり、大阪経済大学図書館の皆さまの惜しみないご協力とご支援に対してここに感謝の意を表します。

#### 参 考 文 献

- Bamford, J., & Day, R. (1997). Extensive Reading: what is it? why bother? *The Language Teacher*, 21, 6-8, 11-17.
- Beglar, D., Hunt, A., & Kite, Y. (2012). The Effect of Pleasure Reading on Japanese University EFL Learners' Reading Rates. *Language Learning*, 62, 665-703.
- Elley, W. B., & F., M. (1981). *The Impact of a Book Flood in Fiji.* Wellington, New Zealand: New Zealand Council for Educational Research and Institute of Education: University of South Pacific.
- Horst, M. (2005). Learning L2 vocabulary through extensive reading: A measurement study. *Canadian Modern Language Review*, 61, 355-382

- Iwahori, Y. (2008). Developing reading fluency: A study of extensive reading in EFL [Electronic Version]. *Reading in a Foreign Language* 20, 70-91. from <http://nflrc.hawaii.edu/rfl/April2008/iwahori/iwahori.html>.
- Mason, B., & Krashen, S. (1997a). Can extensive reading help unmotivated students of EFL improve? *ITL Review of Applied Linguistics*, 117-119.
- Mason, B., & Krashen, S. (1997b). Extensive reading in English as a foreign language. *System*, 25, 99-102.
- Mohd Asraf, R., & Ahmad, I. S. (2003). Promoting English language development and the reading habit among students in rural schools through the guided extensive reading program. *Reading in a Foreign Language*, 15.
- Nishizawa, H., Yoshioka, T., & Fukada, M. (2010). *The impact of a 4-year extensive reading program*. Paper presented at the JALT2009 Conference Proceedings, Tokyo: JALT.
- Nishizawa, H., Yoshioka, T., & Ito, K. (2006). Eibun Tadokuniyoru kougakeigakuseino eigounyounouryokukaizenn [Improvement of Engineering Students' Communication Skills in English through Extensive Reading]. *IEEJ*, 126, 556-562.
- Robb, T. (2002). Extensive reading in an Asian context—an alternative view. *Reading in a Foreign Language*, 14, 146-147.
- Robb, T. N., & Susser, B. (1989). Extensive reading vs. skills building in an EFL context *Reading in a Foreign Language*, 5, 329-251.
- Takase, A. (2007). Extensive reading in the Japanese high school setting. *The Language Teacher*, 31, 7-10.
- Takase, A., & Uozumi, K. (2011). What motivates teachers to continue extensive reading programs in class. *ERJ*, 4, 2-6.
- Waring, R., & Takaki, M. (2003). At what rate do learners learn and retain new vocabulary from reading a graded reader? *Reading in a Foreign Language*, 15.
- SSS 英語学習法研究会. (2012). 『読書記録手帳』 東京：コスモピア.
- 高瀬敦子. (2007). 「大学生の効果的多読指導法」 関西大学外国語教育フォーラム, 6, 1-13.
- 高瀬敦子. (2010). 『英語多読・多聴マニュアル』 東京：大修館書店.
- 黛道子 & 宮津多美子. (2012). 「順天堂大学での多読指導」 2012年日本多読学会年会発表資料.
- 吉田弘子. (2010a). 「英語学習における多読の効果—授業に多読活動を導入するために」 大阪経大論集, 61, 133-143.
- 吉田弘子. (2010b). 「書評：高瀬敦子著『英語多読・多聴指導マニュアル』」 大修館書店 2010年6月刊. 大阪経大論集, 61, 293-298.

資料1 児童書（左）とグレイデッド・リーダー（右）



易しい児童書（写真左）から徐々にレベルを上げてグレイデッド・リーダー（写真右）へ進む

資料2 リーディング・ログ



Project EX Report (多読レポート) NO. ( 2 )  
 多読3原則(1)辞書はひかない(2)わからないところは必ず3つつまらなければやめる  
 \*1分間に130-150語の速さであれば、読書量アップの目安。

冊数	読み終えた日	タイトル	出版社	語数	今まで読んだ語数	種類	難易度	読むのにかかった時間(分)	評価	一行感想・メモ
(記入例)										
1	4/28	Who is it?	Oxford	16	16	ORT1	0.1	1	★★★	興味する!
2	4/28	Sniff	Oxford	124	140	ORT3	0.3	1.5	★★★	面白、素晴らしい
3	4/29	The magic key	Oxford	273	413	ORT5	0.5	3	★★★★	あんな面白くない本、ひきこまなかった。
20	11/10	The motorway	Oxford University Press	883	14056	ORT7	0.7	9	★★★★	読んで感動した。
31	11/11	Submarine Adventure	Oxford University Press	890	1494	ORT7	0.7	8	★★★	手帳で読んだ。
32	11/14	Lionel at School	Puffin	560	16506	PER3	1.4	17	★★★	読んで感動した。
33	11/14	Tales of Amanda Pig	Puffin	1782	19288	PER3	1.2	20	★★★★	読んで感動した。
34	11/16	The Hunt for Gold	Oxford University Press	916	19204	ORT7	0.7	10	★★★★	読んで感動した。
35	11/16	Pocket money	Oxford University Press	266	20470	ORT8	0.9	2	★★★	面白、感動した。
36	11/16	Storm castle	Oxford University Press	1386	21856	ORT9	1	15	★★★	読んで感動した。
37	11/16	King On a horse and the Sun-Nite Mystery	Puffin	1039	22895	PER2	1.2	10	★★★	読んで感動した。
38	11/17	Christmas adventure	Oxford University Press	446	23361	ORT6	0.6	5	★★★★	読んで感動した。
39	11/17	The Jigsaw Puzzle	Oxford University Press	854	24215	ORT7	0.7	9	★★★★	読んで感動した。
40	11/17	Friend	Oxford University Press	1149	25364	ORT8	0.9	3	★★★	読んで感動した。

ぎっしり記入されたリーディング・ログは学生たちの多読の証

## 資料3 リストを利用した多読へのチャレンジ (2012年度)



学生は読了した本を多読図書リストでチェックし  
マーカーで塗りつぶしていく

## 資料4 授業内読書のために筆者が持ち込んだ多読用図書 (2012年度)



図書館の蔵書にない本も用意し、学生は自由に選んで授業内で読むことができるようにしている

## 資料5 Project EX を知らせるポスター（旧図書館）



毎年秋学期に実施している Project EX

## 資料6 図書館報（2012/4/1）に掲載された Project EX（2011年度）

## 多読プロジェクト「Project EX 2011年度」報告

経済学部3つの英語クラスでは、2011年度秋学期に多読プロジェクト「Project EX」を実施しました。このプロジェクトは、英語学習者向けに語数や文法が配慮された易しい英語を授業外で大量に読むというものです。学生たちは、図書館の多読用書架から自分の読みたい本を借りて、読んだ本の冊数と語彙数

を記録しました。多くの学生から「英語を読むことに関して楽になった」、「英文を読むスピードが上がった」、「TOEICでリーディングスコアが上がった」などの感想が寄せられ、多読で優秀な記録を残した学生は授業内でクラス担当教員から表彰されました。

（経済学部教員 吉田弘子、大野あずさ）



（大野先生クラス）優秀賞  
クラス e4 荻谷玲央君



（吉田先生クラス）優秀賞  
クラス e1 藤井俊平君



（吉田先生クラス）優秀賞  
クラス e2 藤田朋子さん